



BPファシリテーター体験記 和歌山県串本町

「親の役割をとらない」ということ

NPO法人「あったカフェ」 代表 岩崎 ひろみ

いっぱいいっぱいな子育て

私が住む町は、本州最南端の和歌山県串本町です。人口16,000人ほどで、出生数は年間70人に満たないほどの小さな町です。串本町は、都会からお嫁に来たり、転勤族の多い町でもあります。

この町に来て17年ほどになります。その頃の子育て支援は、月に一度親子が遊べるひろばがあるだけでした。転入してきた私は、近くに親族がいるわけでもなく友達も少ない中での子育てが始まりました。仕事として子どもに関わってきたのでどこかで大丈夫。。。と思っていたのですが、24時間母であることがこんなに大変なんだと気づきました。いろんなプレッシャーや、うまくできない不安からどうしていいかわからない自分がいて。子どもたちに当たっていっぱいいっぱいな子育てをしていました。

「あったカフェ」誕生

その頃世間で、母親たちのサークル活動が盛んでした。串本町でも一緒に仲間と子育てしたら楽しくなるのではと考え、友達と公園で集まることから始め、町施設の部屋を借り、と少しずつ仲間が増えていきました。そんな中、県の講座がありそこで出会った仲間と作ったのが「あったカフェ」です。そして2011年から、串本町の委託を受け「ひろば事業」を始めることになりました。

親子連れで出かけられる場所作り、こんなことができればいいなと思うことをみんなで考えて形にしてみました。仲間に出会い、自分自身も支えられ、勉強する中でどう向き合っていけばいいのか、子育てしていけばいいのか良い方向に進むことができました。

BPをぜひ串本で

孤育て、産後うつ、虐待がニュースになることは珍しくありません。そして誰もが他人ごとではないように思います。ひろばを続けていて、ひろばに来れない人にも何か届ける方法はないか、といつも感じていました。そんな時に、親向けのプログラムの中に“BP”というものがあることを知りました。そして一度見学させてもらいました。そこで出会った方たちが、「この時間が楽しみ」「みんな感じていることが一緒に安心した」という感想を聞いて、「このBPプログラムをぜひ串本でも開催したい！」と思いました。

そして見学させていただいたファシリテーターにお願いして町に来てもらい、BP講座を串本で開催することができました。思った通り参加してくれた方たちから、「BPがあってよかった！」という声を聞き、ぜひ串本



あったカフェ

町で子育てしている方全員に提供したいと感じました。そして自分たちでBPファシリテーター養成講座を受け、ファシリテーターになろうということで、串本町にもお願いしたところ、「子どもたちのために」と補助も出していただき、2017年の夏にもう1人のスタッフと養成講座を受講しました。

やっと開催決定

受講してみて、BPプログラムには、この時期のお母さんたちに伝えたい少し先を見通した子育て知識の提供がたくさん詰まっていたこと。この時期に仲間作りのきっかけとなり一緒に子育てし、かけがえのないつながりができることが素敵だと再確認しました。

串本町での2回目のBPも、前回のファシリテーターにお願いし、10月開催予定で勧誘や声掛けを進めていきました。事務局に問い合わせたところ養成講座を修了した2人で開催できるということになりました。あわてて2人で開催に向けて準備や打ち合わせを行いました。しかしなかなか5組に達しなくて苦労しました。

対象者が来ると聞けば健診に足を運んで声をかけ、知り合いのつながりを頼り、何とか対象者7名のうち6名が参加してくれギリギリに開催決定になりました。

少ない人数の難しさ

セッションの初回は、6人が参加してくれました。私たちが細かく打ち合わせをしたつもりでしたが、実際に参加者を前に進めていくといろいろ予測していなかったことが起こったり、初めてということで緊張したり、人数が少ないとすべての話が聞こえてきてついついこんなこともあるよと声掛けたくなり、黒子に徹するということが難しく感じました。ピアサポーターさんに助言をいただいたり、2人でこんな時は？と考えたり進めていき

ました。

3組欠席することもありました。3組で進めるとペアでの話し合いができず、グループの話し合いだけになったりと進めるのが難しかったです。やはり5組以上での開催ということに意味を感じました。参加者が5組を切ったので認定対象にはなりませんでしたが、なんとか4回終了しました。うまくできた自信はありませんが、アンケート結果を見るとよかったと感じていただけたことがわかり、テキスト通りに進めると伝わったのだと少し安心も感じました。



なかなか参加者が集まらず…

継続しなければ、B Pの良さも伝わらないとすぐに次回は3月に予定を立て、参加者を募集しました。

保健センターや出生届を出す総務課、産婦人科などには、チラシを置いて配布をお願いしましたが、やはり健診の場などに出かけて直接お話しした方が参加の決め手になるようでした。

半面、初めての健診が4か月健診になるので勧誘の時期の難しさも感じます。赤ちゃん訪問についていきたいと交渉してみたところそれは実現しませんでした。保健師さんもチラシと声掛けも行ってくれたようで「訪問で予約もってきたよ」と持ってきてくれるようにもなりました。しかし5組という壁があり、あと一人というところで集まらずでした。2人の参加者がいたので開催を4月に延期してみたのですが、結局開催できませんでした。その方たちには“ひろば”を進めて、あらためて保健師さんに出産予定数などを教えてもらい、すこしでも対象者が多い月を選んで9月に開催することにしました。すぐに計画書とチラシを確認してもらいました。事務局の方でも一人でもと考えて下さり、対象者の誕生日がわかりやすいように細かく何日から何日までしたらよいと教えていただきました。

5回目のチラシの配布となると「B Pのね」と預かってもらえるようになりました。繰り返し認知してもらったのが大事だなと思いました。

多人数とのちがいを実感

9月に向けて準備している間に、近くの市のB Pのお手伝いの声がかかりました。少し大きな市なので、参加者が12人でした。経験豊富なF A（ファシリテーター）と2人でさせてもらえるのでとても良いチャンスだ

と思いました。私にとっては2回目のB Pでした。

前回とは違い参加者が多いので、小さな輪になって座るだけでも何度も声掛けしたり、F Aに注目してもらうのにも声だけではなく手をあげたり工夫が必要でした。F Aの互いの立ち位置など、少ない人数でのB Pとの違いがありとても良い経験になりました。小さなことはF Aに確認できたり、セッション後にはピアサポーターさんからコメントやアドバイスをいただきとても勉強になりました。

テキストに書かれていたこと

その中で、他己紹介の説明にFAの名前を使ってしまい、それでは必要以上にFAに興味を持ってしまふことがあり「黒子に徹する」ということが難しくなるとアドバイスいただきました。テキスト通りに進めることの大切さを実感しました。

また、セッション中にトイレで退席される時に赤ちゃんが泣いてしまい、お母さんもトイレに行きにくそうだったので、FAが抱いてしまったことでも、赤ちゃんが泣いてもよいことを伝える、その理由を考えることとアドバイスいただきました。次のセッションで実践してみると、参加者もスッとトイレに行かれ、その間に他の参加者が声をかけたりその場の雰囲気や和やかになりました。テキストに書かれていたことはこういうことだったのかと感ずることができました。

テキストをしっかり読み込んで進めていく必要性を再確認しました。



子育て支援とは

養成講座を受けた時に、トレーナーがおっしゃっていた「親の役割をとらないでください」という言葉が印象的でした。ひろばでは、つつい手を貸していることにハッとしてしまいました。今まで良かれと思っていましたが、利用者さんにとってその場は助かることも多いと思いますが、それではおうちに帰って、手助けがないと困ると。子育て支援についても考えるきっかけにもなりました。

B Pの養成講座を受講し、FAに挑戦することでいろいろな気づきがありました。これから一人でも多くの子育てするお母さんにB Pを届けて、一緒に学んでいきたいと思ひます。B Pに出会うことができよかったです。